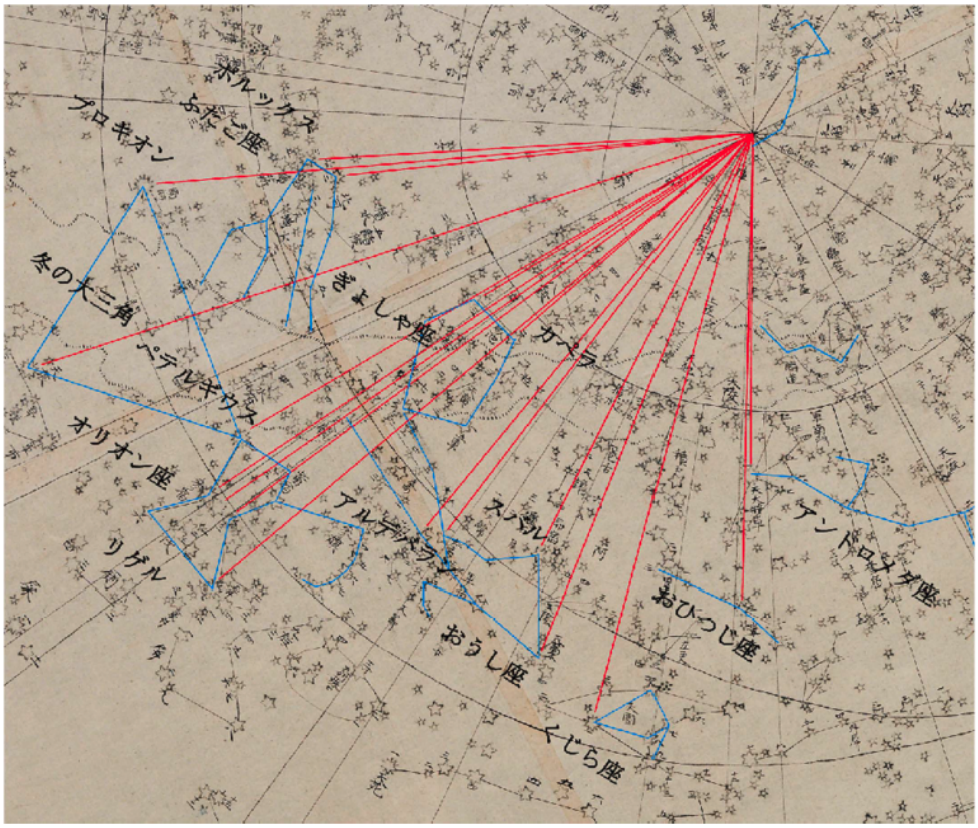
伊能測量隊が第五次測量行の岡山城下で測った星々

文化二年十二月朔日（1806/1/20）、伊能測量隊は前日までに児島半島沿海の測量を終了して止宿先の彦崎村（現岡山市南区彦崎）から児島湾の満潮を待って出航し、旭川を通って岡山城下の脇本陣福岡屋にわらじを脱いだ。その日から、翌年の文化三年正月十八日までの４７日間滞在し、その脇本陣を**地図仕立役所**とし、それまでの測量結果の纏め作業を実施した。加えて、冬期における測量ははじめてでもあることから、冬の星座に対する恒星表作成のため１０回の天測を実施した。残念ながら、その天測のデータは紛失してしまい残っていないが、第一次測量～第三次測量における天測データの傾向からこの岡山で測った星を推測できる。

岡山城下での最初の天測は到着の翌翌日の十二月三日（1806/1/22）に実施している。測量日記には次のように記録されている。「朝中晴、子午線象限儀据込。此夜晴天測量」。

当日は、１７時４０分頃、東南の空に冬の三角を構成するシリウス、プロキオン、ペテルギウスとおうし座のアルデバランがきらめき出した。秋の代表的な星座のペガスス座、カシオペア座は子午線を横切って西の空に進んでしまい、これから子午線を横切ろうとしていたのはアンドロメダ座の左足先できらめく星とおひつじ座の頭の部分で煌めいている星であった。それらの星から測りはじめ、その後、いわゆる冬の代表的な星座のおうし座、オリオン座、ぎょしゃ座、おおいぬ座、こいぬ座、ふたご座の星々を深夜まで頑張って測った筈である。

なお、北極星（勾陳一）は１７時３０分頃、既に子午線を横切っていたので、測ることはできなかった。



文化2年(1806) 12月2日(1月21日) 岡山城下 脇本陣(福岡屋) 天測			
No	測った星(中国名)	88星座名	天測時刻
1	天大将軍	アンドロメダ座γ	17:40
2	婁宿三	おひつじ座α	
3	天溷一	くじら座α	
4	天廩	おうし座σ	
5	昴宿	おうし座η(ｽﾊﾞﾙ)	19:26
6	畢宿五	おうし座ε	
7	附耳	おうし座α(ｱﾙﾃﾞﾊﾞﾗﾝ)	
8	五車二	ぎょしゃ座α(ｶﾍﾟﾗ)	20:51
9	参宿七	オリオン座β(ﾘｹﾞﾙ)	20:57
10	参宿一	オリオン座δ	
11	参宿二	オリオン座ε	
12	参宿三	オリオン座ζ	
13	五車二	ぎょしゃ座β	
14	参宿四	オリオン座α(ﾍﾟﾃﾙｷﾞｳｽ)	21:31
15	天狼	おおいぬ座α(ｼﾘｳｽ)	22:23
16	北河二	ふたご座α(ｶｽﾄﾙ)	23:10
17	南河三	こいぬ座α(ﾌﾟﾛｷｵﾝ)	
18	北河三	ふたご座β(ﾎﾟﾙｯｸｽ)	23:20